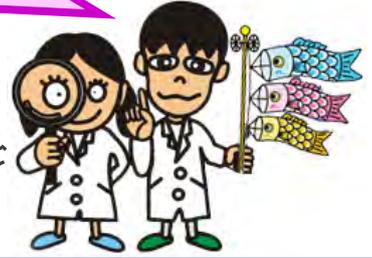
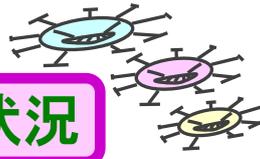
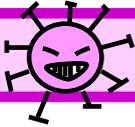


感染症に気をつけよう!

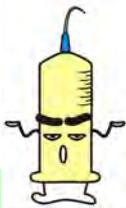
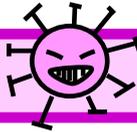
2018年【5月号】

横浜市内の感染症 流行状況

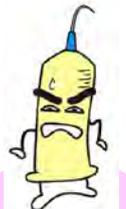
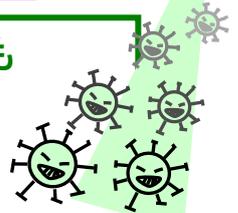


感染症*	流行状況		説明 【解説付き既刊号】 ← クリック
	★ 散発	➡ 横ばい	
A型肝炎*	★ 散発	➡ 横ばい	ウイルスに汚染された食品等から感染しますが、性的接触による報告が多い状態です。【'14.4号】
インフルエンザ**	★ 終息	➡ 減少	4月中旬に、患者報告数が定点あたり1人を下回って、流行は終息しています。【'17.12号】

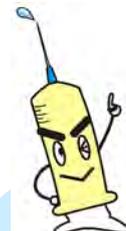
今、気をつけたい感染症 麻しん(はしか)



- 麻しんウイルス**は感染力が非常に強く、空気を介してもうつるので、手洗いやマスクだけでは予防できません。
- 麻しんの免疫が不十分な人が感染すると、高い確率で発症します。



- 症状は、高い熱や全身の発しん・咳・鼻水・目の充血などです。
- 肺炎や中耳炎になることがあり、まれに重い脳炎を発症することもあります。先進国であっても、1,000人に1人が死亡すると言われています。



- 予防には、ワクチン接種（一般的にはMRワクチン）が最も有効です。十分な免疫をつけるためには、2回の接種が必要になります。
- 特に、麻しんの流行が報告されている国や地域***への旅行を予定している人は、かかりつけ医に相談しましょう。



- 麻しんにかかった可能性がある場合は、事前に医療機関へ連絡し、指示に従って受診してください。



【参考ホームページ】*:国立感染症研究所 **:厚生労働省 ***:厚生労働省検疫所(FORTH)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】

